

令和2年度 県立名護商工高等学校 学校評価（自己評価・学校関係者評価）

No.1

1 教育目標	① すぐれた知性の育成（知育） ②ゆたかな心の育成（徳育） ③たくましい体の育成（体育） ④協働で新たな価値を創造する力の育成（共創力育成）
2 学校経営目標	① 良き校風と支持的風土の伴う魅力ある学校づくりの推進 ②心身ともに健康で明るく安心・安全に過ごすことができる学校づくりの推進 ② 生徒・保護者・地域からの期待に応える信頼される学校づくりの推進 ④職員にとってやりがいと働きがいのある学校づくりの推進

重点取組事項	評価項目	自己評価	令和2年度の課題等	学校関係者評価	学校関係者から次年度に向けての要望等
1 チーム学校体制の確立	(1)学校重点目標について学校全体で共通理解され、達成に向けた取り組みが着実に進んでいる	B	・業務改善、働き方改革の推進が必要である。 ・機械システム科、商業系学科定員確保の努力が必要である。	B	
2 キャリア教育・進路指導の充実強化を図る	(2)進路相談・個別指導の充実や進路情報の収集・提供など進路指導が強化されている	B	・新型コロナの影響で進路ガイダンスや進路講話などが中止、縮小する事になった。その代わりにオンラインでの講話や試験、企業説明等が行われ接続で予期せぬトラブルが出ることもあったので、次年度に引き継ぎ今年度の反省を生かしていきたい。	A	・「将来の職業や働くことについて先生方から適切なアドバイスが得られた」ことに対して、「あまり満足していない」「不満である」と回答した生徒が18%いる状態を減らしたいですね。 ・高校1年生から、3年生になったときを意識させて進路指導をした方が良い
	(3)キャリア教育の充実により望ましい職業観・勤労観の育成に努めている	B			
	(4)学校は生徒・保護者がいつでも進路相談に行ける雰囲気である	B			
3 豊かな心と健やかな体を育む教育活動の充実	(5)部活動の活性化を図り、豊かな人間形成に努めている	B	・体育系部活動に参加する女子が少ない。 ・働き方改革と部活動指導を両立させる工夫が必要である。	C	・コロナ禍の影響で部活動は困難でしたね。

※ 評価基準 A:ほぼ達成（8割以上） B:概ね達成（6割以上） C:変化のきざし（4割以上） D:不十分（4割未満）

重点取組事項	評価項目	自己評価	令和2年度の課題等	学校関係者評価	学校関係者から次年度に向けての要望等
4 特別支援教育体制の充実	(6) 特別な支援が必要な生徒の学習を指導・援助する校内体制(校務分掌や内規など)が整備されている	B	<ul style="list-style-type: none"> 保健相談部やサポートルーム支援員との横の繋がりを構築し生徒支援を行うことができた。 個別のケース会議等を継続して行い、関係職員との情報共有や連携を図ることができた。 特別支援教育支援員の行う学習支援以外の支援方法についても検討が必要である。 特別な支援が必要な生徒の指導や支援に適切な内規の整備が必要である 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の評価は高いのですが、生徒がどのようにおもっているかはわかりません。
	(7) 特別な支援が必要な生徒の発達を支えていくという視点を学校全体で共有し、指導や支援が組織的・継続的に行われている	B			
	(8) 教師は生徒の特性や発達上の課題をよく理解し、支援員との連携や関係部署との情報共有など学習指導の工夫を行っている	B			

※ 評価基準 A:ほぼ達成（8割以上） B:概ね達成（6割以上） C:変化のきざし（4割以上） D:不十分（4割未満）

重点取組事項	評価項目	自己評価	令和2年度の課題等	学校関係者評価	学校関係者から次年度に向けての要望等
5 授業改善の推進	(9) 補習や課外講座等による個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図っている	A	<ul style="list-style-type: none"> ・補習や資格取得に向けて放課後講座を行っているが、アルバイトや下校時のバスの時間等により、補習や検定対策に参加し辛い(残れない)状況が多い。 ・キャリア教育の視点を踏まえた資格・検定の取得奨励 ・補習や課外講座の充実により職員の負担が増えている。働き方改革との両立。 ・コロナ禍でも可能なアクティブラーニングの研究 ・生徒のモチベーションを維持する取り組みが必要である。 ・教材研究や生徒に関わるための時間の確保 ・学習の習慣化を身に着けさせる何らかの手立てが必要 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「先生は生徒の性格や特徴をよく理解し、個に応じた学習指導に努めている」の質問に対して「あまり満足していない」「不満である」と回答した生徒が24%います。 ・「学校は、各種講座など、資格取得の取組みが充実している」の質問について68%の生徒が「満足している」「ほぼ満足している」と回答しています。
	(10) 主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行っている	B			
	(11) 各種資格・検定の取得を奨励し、専門教育指導の強化を図っている	A			
6 学校安全及び教育環境整備の推進	(12) 学校の環境は、安全で健康的なものとなっている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教職員の感染症感染拡大防止の取り組みの継続が必要である。 ・自習時間、実習科目におけるケガ防止の取り組みの推進が必要である。 ・生徒送迎時の駐車場の整備を継続して行う必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「教室やトイレなど、校内がきれいである」の生徒アンケートより環境整備が必要ですね
	(13) 校内の施設・設備は常に点検・整備が行われている	B			
	(14) 授業中や休み時間に健康観察を行い、体調不良者については保健室等へ連絡または早退させる等の適切な対応を行っている	A			
	(15) マスク着用、手洗い、消毒、3密の回避など、感染拡大防止の対策を行っている。	A			

重点取組事項	評価項目	自己評価	令和2年度の課題等	学校関係者評価	学校関係者から次年度に向けての要望等
7 生徒指導・教育相談の充実強化	(16) 全体集会、講話、巡視、個別指導等を通して、基本的な生活習慣の確立と心の教育の充実に努めている	B	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を育むため、授業や部活動を通して、挨拶や相手を尊重する態度の育成に努める必要がある。 ・R2年度交通事故は発生していない。交通安全講話の実施だけでなく、日頃からの生徒に対する交通安全指導の徹底に今後も取り組む必要がある。 ・情報モラル（SNS等）に関する指導内容・方法等について、サイバー犯罪講話を行っているが、その他効果的な取り組みを常に模索する必要がある。 ・R2年度のいじめ案件は一件と昨年度と比較すると減少している。全職員での早期発見・早期対応を図るべく問題解消に取り組むことができた。今後とも、「いじめアンケート」の実施を行うなど、未然防止に力をいれて取り組む必要がある。 ・生徒の特性・実態に応じた指導ができるよう、スクールカウンセラーや臨床心理士など、関係機関と連携した指導・支援が必要である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・懲戒数が激減していることから、効果的な生徒指導がなされていると思いました。
	(17) 規範意識の醸成と挨拶や相手を思いやる心の育成等の指導が行われている	B			
	(18) 生徒たちの安全意識の向上や交通安全指導が行き届いている	B			
	(19) 学校は体罰のない学校づくりに取り組んでいる	A			
	(20) 学校は生徒の暴力や暴言のない学校づくりに取り組んでいる	B			
	(21) 担任、教育相談係、関係部署で連携し、教育相談の充実に努めている	A			
	(22) 学校はいじめを防ぐために、行事や講話などの取組を行っている（いじめの未然防止）	A		B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケート「いじめの早期発見に努めている」「いじめの事実確認などいじめの解消に向けた対応を行っている」の質問に対して、「あまり満足していない」「不満である」と回答した生徒が、それぞれ20%づついます。
	(23) 学校は日頃から、いじめを相談しやすい雰囲気づくりやアンケート調査、声かけなどを行い、いじめの早期発見に努めている（いじめの早期発見）	A			
	(24) 学校は、いじめが発生した場合、すぐに被害者を保護し、いじめの事実確認などいじめの解消に向けた対応を行っている（いじめの早期対応）	A			
(25) いじめの発見・通報を受けた職員は直ちに管理者に報告するなど、いじめの解消に向けて法令等に基づき組織的に対応している（いじめ関係法令の遵守）	A				

重点取組事項	評価項目	自己評価	令和2年度の課題等	学校関係者評価	学校関係者から次年度に向けての要望等
8 特別活動等の充実強化	(26)生徒の自主的運営による行事を実施している	B	新型コロナウイルスの影響で、今まで普通に行っていた行事から「新しい生活様式」を念頭に置いた行事に企画しなおした1年だった。残念ながら実施できなかった行事もあったが、次年度も今年度の企画をベースに、生徒たちの自主性・自治性の育成を図れるよう工夫改善をしていきたい。	B	
	(27)学校行事等で帰属意識、公共の精神、社会性を育成している	B			
9 学校広報活動の充実	(28)中学校への広報活動を充実させている	B	緊急事態宣言の影響で、2月に依頼のあった中学2年生向けの学校説明会が中止となってしまった。コロナ禍で活動が制限される中ではあるが、中学1・2年生向けの広報活動を実施出来なかったことが課題である。	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「広報誌やマスコミ、ホームページ、メーリングサービス等を活用して広報が充実している」の回答で「満足している」「ほぼ満足している」との回答が62%と高く評価されています。 名護商工高校の教育内容や実績が地域の中学生にまだ十分周知されていないと思う。わかりやすい資料を作成して周知に努めてはどうか。
	(29)学校ホームページや校門前掲示板等で広報活動を充実させている	B			
10 地域から信頼される学校づくりの推進	(30)PTA評議員会の定期的開催と、地域情報交換会や夜間巡視へ積極的に参加している	B	新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの行事が中止・延期を余儀なくされた。保護者同士の連携を図る機会が限られてしまった。	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの全体から一定の信頼を得ていると思います。
	(31)保護者・地域住民、学校評議員会の意向を学校運営に反映させ、開かれた学校づくりを進めている	B			

※ 評価基準 A:ほぼ達成（8割以上） B:概ね達成（6割以上） C:変化のきざし（4割以上） D:不十分（4割未満）